

'17.3.24

矢崎科学技術
振興記念財団
研究助成金など決定

矢崎科学技術振興記念財団は平成28年度(第34回)研究助成金の受領者、矢崎学術賞の受賞者を決定した。

同財団では、科学技術の発展を目的に研究助成を行っており、今年度は新材料、エネルギー、情報を対象領域として、研究の独創性に重点を置いて選考が行われた。

一般研究助成(助成金2

00万円)は、木村隆・龍谷大教授の『セルラニューラルネットワークの超低消費電力化を目指したキャパシタ型シナプスの研究』、富岡克広・北大准教授の『高品質狭ギャップ化合物半導体ナノワイヤ材料の創生と省エネルギー電子素子応用』など5件。若手を対象にした奨励研究助成(助成金100万円)は、松下

院助教の『3次元トポロジカル絶縁体BSTS薄膜を用いた表面ディラック電子系の熱電物性の直接観測とその解明』、川本拓治・山口大大学院助教の『活性種の精密制御が切り拓く新規有機ホウ素化合物の合成』など10件。同財団が特定したテーマを対象にした特定研究助成(助成金1000万円)は、土屋智由・京大

大学院准教授の『真空ナノギャップを用いた常温熱電子発電・冷却デバイス』が選ばれた。
また、国際的な学会で論文や共同研究発表をする際の渡航費を支援する国際交流援助は17人が対象となった。
過去に研究助成を受け、優れた成果を出した研究者に贈る若手が対象の矢崎学術賞(奨励賞)は、鈴木健仁・茨城大講師の『テラヘルツ光学素子応用のための電磁メタマテリアルの研究』が受賞した。